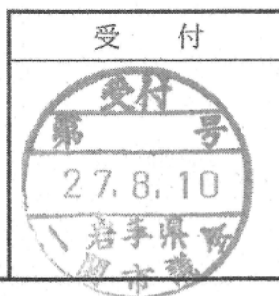


調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議長 千葉大作様



報告年月日	平成27年8月10日								
実施日(期間)	平成27年7月7日～平成27年7月10日								
実施場所 (行先等)	北海道函館市・苫小牧市・滝川市・留萌市								
事業区分 (いずれかに○)	○研修 調査研究 要望・陳情活動 会議								
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 函館市「函館市地域交流まちづくりセンター」について ○ 苫小牧市「まちなか再生総合プロジェクト事業」について ○ 滝川市「未来へつなぐ市民力推進事業」について ○ 留萌市「農業と福祉の連携による6次産業化事業の取り組みに」について 								
報告者	(会派名) 関新会 (代表者) 槻山隆								
参加者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">議員 槻山隆</td> <td style="width: 50%;">議員 岩渕一司</td> </tr> <tr> <td>議員 橋本周一</td> <td>議員 佐々木賢治</td> </tr> <tr> <td>議員</td> <td>議員</td> </tr> <tr> <td>議員</td> <td>議員</td> </tr> </table>	議員 槻山隆	議員 岩渕一司	議員 橋本周一	議員 佐々木賢治	議員	議員	議員	議員
議員 槻山隆	議員 岩渕一司								
議員 橋本周一	議員 佐々木賢治								
議員	議員								
議員	議員								
報告要旨	<ul style="list-style-type: none"> 1. 目的・・・・・・・・別紙(1) 2. 概要・・・・・・・・別紙(2) 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙(3) 								
主要 資料名	<table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>								

別紙(1)

(会派用)

別紙行程表

7月7日(火) 7:00 一ノ関駅集合(西口)

一ノ関駅 → 新青森 → 函館市(研修) → 洞爺湖(宿泊)

はやぶさ95号 スーパー白鳥号 レンタカー

7:12 9:12 13:30~15:00 (洞爺湖畔亭)

7月8日(水)

洞爺湖 → 苫小牧市(研修) → 札幌(宿泊)

レンタカー レンタカー

14:00~15:30 (ホテル京阪札幌)

7月9日(木)

札幌 → 滝川市(研修) → 留萌市(宿泊)

レンタカー レンタカー

10:00~11:30 (ホテル ノースアイ)

7月10日(金)

留萌市(研修) → 千歳空港 → 仙台空港 → 仙台駅 →

レンタカー ANA1230

9:30~11:00 17:50~19:05

一ノ関駅

1. 視察目的

国民ニーズの多用化に応えるべく、時代の波は必然的に社会の構造をも変える中、地方自治も激動期であります。当市に於いても合併に始まり、従来の行政ありきではなく時代に沿って大きく舵を取り、機構改革をはじめ、指定管理、地域協働体、そして地方創生等の言葉が飛び交い、新しいところでは4月から公民館が市民センターへと変わった。市民が主役のまちづくりを進める為には私達市民もかわらなければならない。しかしその為には市民活動を支援する仕組みや活動拠点が不可欠です。他市ではどのようなになっているのか。函館市地域交流まちづくりセンターに事業内容や施設の管理運営等について学んだ。

2 視察先概要 (別紙)

3 参考となる事項・所感

このまちづくりセンターは街の中心地にあり、ランドマーク的存在で東北以北最古のエレベーターを有する歴史的価値がある商業施設を改修保存したものである。NOP法人が管理運営し、常時職員は正・非・派遣を含み10人が勤務。その活用方針として、①地区の振興とまちづくりの拠点施設として活用すると共に、新たなまちの魅力の創造や情報を発信する施設とする。②市民生活やサークル活動などの多様な交流活動を促進・支援し、人と人のふれあいを大切にする施設とする。③地域住民をはじめ市民の意見・要望などを取り入れた活用方策とする。これに基づいて市民がどうすれば集まってくるのかを常に考え、工夫・努力している。空室を作らない、その為にはリピーターを取る。その為には利用時に徹底してお世話する。又、NOと言わない。要望に沿えない時はどうすればそれに応えられるのか考えその規制を除き使用できる様にする等々自信を持って声を大にして私達に説明して頂いた。やはり事を成すは人成りを再認識したところです。

1、視察目的

人口減少・高齢化社会の到来は確実な状況であり、歴史史上始まって以来大きな時代の転換期にある。今後のまちづくりに於いては都市運営の観点から持続可能な街づくりを進めてゆかなければならない。このような状況は当市に於いても同様であり、まちなか再生のための研修を行うこととする。

2、視察先概要 (別紙)

3、参考となる事項・所感

人が住んでいるということは街が成り立つ基本的条件であり、町なかの賑わいを取り戻すためには、まちなか居住の推進を図ることは極めて重要である。生活圏が郊外中心である現在のまちの構造転換を図る上で重要な要素である。人口減少・少子高齢化の流れの中でコンパクトな街づくりを進める上で必要不可欠なことである。町なかの居住を推進するに当たっては、生活者の視点から暮らしやすい生活空間としての整備を進めるとともに、多様なニーズに対応した住宅の供給を行っていく必要がある。高齢者世帯の新たな居住の選択肢となることも重要になっている。

1、視察目的

地域にすむ人々が自らの地域の未来に希望を持ち個性豊かで潤いのある生活を送る事ができる地域社会を形成することである。それぞれの地域が独自性を活かし、その潜在力を引き出すことにより、多様な地域社会を作り出していくことが基本である。地域自らが将来の成長・発展の種となるような地域資源を掘り起こし、それらの取り組みを息長く進めていく必要がある。それらを推し進めていくためには市民の力が必要であり、市民力の向上こそが市政発展の原動力となる。市民力の向上のための施策の推進が必要不可欠である。

2、視察先概要 (別紙)

3、参考となる事項・所感

市民自らの発想や行動力を活かした市民力による魅力あるまちづくりを未来へつなぐために、市民自らが行う公益的・社会貢献的事業である。市民や地域の課題を解決するために、市民や^他地域の地域への波及効果も期待できている。一過性ではなく、その後も継続し定着させることを目指す事業を支援するための補助事業であり、市民力向上につなげている。

留萌市 農業と福祉の連携による 6 次産業化事業の取り組み

1. 視察目的

当市に於いても福祉事業所に於いて農業に取り組んでいるところもあり、福祉と農業の組み合わせは、今後の福祉事業所で障がい者を雇用して行く上で手本となり、多くの障がい者にとって働く場の確保という面からも重要な問題であり、留萌市での取り組みがどのようなものか実際の取り組み状況を視察することとした。

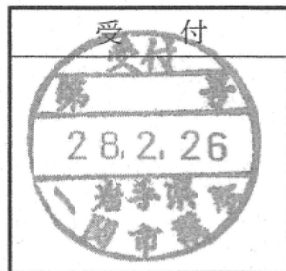
2. 視察先概要 (別紙)

3. 参考となる事項・所感

留萌市は、冬の仕事が極端に少なくなる地域であり、農家の平均年齢も 67 歳となっている。面積では、88%が農村集落であり、農業の主力作目は稲作となっている。そういう中で、留萌市の地域課題を解決するための農林水産業進行基本計画を策定した。この中で、農業と福祉の連携による 6 次産業化推進事業を企画し、廃校となった中学校跡地を利用して施設整備をしており、市の遊休施設の有効利用に繋がり、当市に於いても検討するべきことと思った。また、留萌市は冬期間の仕事が無く、この 6 次産業化推進事業で取り上げている「切り干し大根」は、10~2 月の期間に仕事ができるという作業体系となっており、この地域にとってまたとない仕事であり、障がい者福祉サービス 3 事業所から 1 日 10 名を作業員として雇用しており、福祉事業所の運営に大きく貢献していた。

調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議員 千葉大作様



報告年月日	平成28年2月26日	
実施日(期間)	平成28年2月2日～平成28年2月4日	
実施場所 (行先等)	鹿児島県鹿児島市・鹿児島県指宿市・熊本県玉名市	
事業区分 (いずれかに○)	○研修 調査研究 要望・陳情活動 会議	
事業内容	○熊本市「観光農業公園交流体験事業について」 ○指宿市「健幸のまちづくり推進事業について」 ○玉名市「6次産業推進事業について」	
報告者	(会派名) 関新会 (代表者) 槻山隆	
参加者	議員 槻山隆 議員 橋本周一 議員 (印) 議員 (印) 議員 (印)	議員 岩淵一司 議員 佐々木賢治 議員 (印) 議員 (印) 議員 (印)
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙(1) 2. 概要・・・・・・・・別紙(2) 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙(3)	
主要 資料名	_____ _____ _____ _____ _____	

○視察研修 行程表

2月2日(火) 8:00一ノ関駅集合

一ノ関駅 → 東京駅 → 浜松町 → 羽田空港 → 鹿児島空港
8:28 10:28 12:00 発 14:00 着
→ 鹿児島市役所 → JR九州ホテル鹿児島 (宿泊)
15:15~16:45 (視察)

2月3日(水) 7:45ホテル出発

鹿児島中央駅 → 指宿駅 → 指宿市役所 → 指宿駅 → 鹿児島
7:51 発 8:58 着 9:30~11:00 (視察) 13:32 発

中央駅 → 熊本駅 → 玉名駅 → 玉名温泉立願寺温泉ホテル (宿泊)

2月4日(木) 8:50ホテル出発

玉名市役所 → 新玉名駅 → 福岡駅 → 福岡空港 → 仙台空港
9:30~11:00 (視察) 17:00 発 18:40 着
→ 仙台駅 → 一ノ関駅
20:30 発 21:02 着

鹿児島県鹿児島市 「観光農業公園交流体験事業」

1.日 時：平成 28 年 2 月 2 日 15：15～16：45

2.目 的

調査事項：「観光農業公園交流体験事業」について

今更ながら人口の減少に国もようやく立ち上がった。当市に於いても一関市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略が示された。様々な人口減少の施策の中で観光等における交流人口の増加が求められている。当市は岩手県の、そして平泉世界遺産・三陸海岸・須川栗駒の玄関口にあり、県内有数の観光地をも有している。しかし近年農業との連携が求められる中、平成 17 年の合併により、より多くの農村地域・資源を有する事となった当市はその特性を生かしきれているだろうか。それら課題を他市の都市部との交流拠点を整備している先進事例を学ぶ事である。

3.視察先の概要

人口 60 万人を擁する南九州の中核都市鹿児島県鹿児島市。足を踏み入れた瞬間、活気を感じた。平成 23 年 3 月の九州新幹線全線開業がそれをより一層深めた感がある。島津氏の城下町として発展し、近代日本の黎明・明治維新において活躍した西郷隆盛・大久保利道の像が駅前通にあり、また NHK 朝ドラで実業界の五代友厚もこの出と聞き身近に感じたところだ。そして研修が終わるまで視界から離れなかったあの雄大な桜島、九州を離れた翌日に噴火した。記憶に残しておく。この観光農業公園交流体験事業の背景には市民の価値観が多様化する中で都市部住民の中に「ゆとり」「やすらぎ」「いやし」を求め農村地域を訪れたいとする人・文化とのふれあい、体験を希望するなど農村の魅力を見直す人が増え、また食生活の多様化により食と農への関心の深まりが上げられている。そんな中、鹿児島市は平成 16 年に周辺 5 町と合併したことにより豊かな自然環境の魅力ある農村地域資源が増えたところである。このような状況を踏まえ、農村地域の魅力ある資源を活用し、農業及び農村地域の活性化を図るとともに、観光の振興に資するため都市と農村の交流拠点として観光農業公園を整備したものである。

4.参考とすべき事項・所感

この事業は平成 18 年度に市観光農業公園整備基本計画を策定してから始まり、平成 24 年 1 月に併用開始され、総事業費約 3 6 億円、敷地面積約 41.3ha と広大な面積である。

27年会派視察

指宿市

1、視察目的

一関市の高齢化率は、27年度10月1日現在で、32,92%となり、前年度比0,9ポイント増、5年前では2,94%となっている。高齢者のみ世帯、ひとり暮らし高齢世帯も急増し、認知症高齢者も増加傾向にある。今後もさらに高齢化の進行は続くものと見込まれる。このことから、生きがいを持って健康で安心した生活を送ることができるように社会全体で支えていくことが求められている。

指宿市で行っている健幸のまちづくりの取り組みについて視察する。

2、視察先概要

別紙

3、参考とすべき事項・所感

高齢者の約8割が健康な方たちであり、健康づくりを広く啓発し健康寿命を延ばしていくことが肝要であり、医療費の適正化にもつながっていくものと思うのである。予防を重視するサービスの拡充を行うなど、地域福祉についてもそれぞれの地域で住民皆さんが、安心して暮らせるよう地域住民、福祉関係者がお互いに協力し合って、取組んでゆかなければならない。介護を必要としない元気な方たちが、いつまでも健康で安心して暮らすことができる環境を創っていくことが大切である。

○熊本県玉名市「6次産業推進事業」について

1. 視察目的

一関市の現状を見たとき、基幹産業としての農業が元気が無く、今後の一関市の農業・農村の活性化をはかる上、2次産業、3次産業の分野を取り入れた6次産業化推進による地域の活性化に役立つ事例として、先進的に取り組んでいる玉名市を視察することとした。

2. 視察先の概要

玉名市は、熊本県北部に位置し、菊地川と有明海に支えられて発展してきた。平成17年10月3日に1市3町が合併し、米・ミカン・イチゴを始めとする野菜、果物等の農産物の生産が盛んであり、1,300余年の歴史のある玉名温泉もある。九州新幹線鹿児島ルートの開通に伴い新玉名駅も整備され、交通の利便性が向上し、県北の交通拠点として今後の発展が期待されている。玉名市の土地利用状況を見ると、水田と畑で50%を占め、農業を基盤としていることが見て取れる。又、水田の耕作放棄地は無いということであり、農業に対する市の力の入れようが伺える。現在の市長は、特に農業への支援に力を入れ、県知事も元農協職員と言うことで県の方針としても農業への支援策が充実しているとのことであった。

農家戸数に置いては、一関市と替わらず減少に歯止めがかからないと言うことであり、1戸当りの経営面積は増加している。6次産業への取り組みは、現市長の公約であり、生産者の多角経営化への支援を実施するため、6次産業室を設置し支援に力を入れている。以下参考資料による。

3. 参考とすべき事項・所感

実際にこの事業に取り組む場合書類等の作成が難しく、中小規模農家が書類の作成から始めることは大変であり、初歩の段階からの支援を行い、玉名市独自の補助金も設けている。6次産業推進室という部署設けて取り組んでいるという姿勢に共感し、当市に於いても積極的な取り組みにより農家への支援策を望むものである。

4. 添付書類

「玉名市6次産業推進事業の取り組み」